

Hondaの交通安全情報紙

# SJ

Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL 03(5412)1736  
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

●編集人：吉田宏樹

※年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。  
(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係  
TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

4・5  
2014  
April・May

SJホームページは

### CONTENTS

- 特集：ライダーへの安全運転教育  
「安全」と「楽しさ」の両立をめざして……①
- TOPICS①／埼玉県土整備部……④
- 現場訪問／皇宮警察本部・自動二輪乗務員養成委託研修……⑤
- TOPICS②／Honda 春のセーフティキャンペーン……⑤
- TOPICS③／2013年交通安全普及活動報告会……⑤
- STREAM／特別編：Honda自転車シミュレーターを活用した教育プログラムの効果検証……⑥
- 危険予測トレーニング(KYT)/見通しの悪い交差点(二輪車編)……⑦
- 指導者ファイル／宮崎県・宮崎南地区交通安全協会の交通安全指導員の皆さん……⑦
- SJクイズ……⑦
- SAFETY FOCUS／埼玉県川口市……⑧

## 特集：ライダーへの安全運転教育 「安全」と「楽しさ」の両立をめざして



鈴鹿サーキット交通教育センターで開催された「宮城光 スマートライディング」には15名のライダーが受講

ホンダでは昨年11月から今年3月にかけて、モータージャーナリストとしてテレビや雑誌で活躍している宮城光さんを特別講師として招き、一般のライダー向けに様々なスクールやイベントを展開してきた。これは、より多くのライダーに気軽に参加できる場と機会を提供し、バイクを安全に楽しんでもらうための運転技術を身につけてもらうことが目的である。



平成25年の二輪車乗車中の交通事故死者数は760人と全事故死者数の17.4%を占めている。前年に比べ3.6%減少しているが、原付を除く自動二輪車乗車中に限ってみると死者数は1.1%増加した。「安全」と「楽しさ」を両立させ、二輪車事故を防止するために、Hondaではライダーにどのような教育・啓発を行っているか紹介する。

全員の自己紹介が終わると、宮城さんは「今日は速く走るのではなく、上手く走ることを意識しましょう。それが、このスクールの名前でもあるスマートライディングです」と受講者に呼びかけ、実技が始まる。

「子どもたちが社会人になったのをきっかけに、大型二輪免許を取得してバイクに乗り始めました」「人生で何かやり残したことがあるのではないかと考えた時、思いついたのがバイクの運転でした」と、免許を取得したきっかけを紹介したり、「今は乗っていませんが、もう少し年をとったらバイクの運転を再開する予定です。その時に楽しく安全に走れるように練習したいと思います」「ツーリングの時に、よく道を間違えるので、スムーズなUターンができるようになりたい」「今日は、宮城光さんの指導が受けられるということで、やってきました」など、スクールへの意気込みを語り合った。

3月12日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)で「宮城光 スマートライディング」という50歳以上のライダーを対象としたスクールが開催された。スクールの定員となる15名が参加。鈴鹿に近い東海・近畿エリアだけでなく、岡山県や鳥根県からの受講者もいる。指導は宮城光さんと、交通教育センターのインストラクター2名が担当した。

午前9時30分にスタートしたオリエンテーションでは、受講者の緊張をほぐしてもらうために、お互いが自己紹介を行う。「子どもたちが社会人になったのをきっかけに、大型二輪免許を取得してバイクに乗り始めました」「人生で何かやり残したことがあるのではないかと考えた時、思いついたのがバイクの運転でした」と、免許を取得したきっかけを紹介したり、「今は乗っていませんが、もう少し年をとったらバイクの運転を再開する予定です。その時に楽しく安全に走れるように練習したいと思います」「ツーリングの時に、よく道を間違えるので、スムーズなUターンができるようになりたい」「今日は、宮城光さんの指導が受けられるということで、やってきました」など、スクールへの意気込みを語り合った。



スムーズなシフトチェンジとブレーキ操作を身につけてもらうための「基本走行」

準備体操をして、各自が使用するトレーニング車両の点検を終え、ウォーミングアップのための慣熟走行へ。午前中のプログラムは「基本走行」。直線コースで加速と減速を繰り返す。スムーズなシフトチェンジとブレーキ操作を身につけてもらうためだ。「クラッチは素早くきき、ゆっくりつなぐことを意識してください」と宮城さんは強調する。

意識的にバイクを操作してもらうトレーニング

宮城光さんは元Hondaワークスライダーで、全日本GPおよび全米選手権チャンピオン獲得経験を持つ。現在はレースを続けながら、日本テレビ「MotoGP」の解説や安全運転講習で講師を行うほか、ホンダ・コレクションホールで動態確認を行っている



午後からは「応用走行」。直線や大小のコーナーを組み合わせたコースを一人ひとり順番に走り、これを反復する。宮城さんは受講者の後方を追走し、スタート地点に戻ってアドバイス。コーナーが続くセクションでも、可能な限りシフトアップ、シフトダウンするように呼びかける。時にはシフトチェンジやブレーキングのタイミングを伝えるために、宮城さんが受講者をバイクの後部座席に乗せてコースを走行した。

このスクールの特色は休憩を長めにし、受講者と宮城さんが交流できる時間をとっていることである。休憩時には、宮城さんのまわりを受講者が地面に車座になって囲み、歓談が始まる。

「小回りのコーナーやUターンが苦手」という受講者には、「必ず実践していただきたいのは、自分の行きたい方向をしっかりと観るということです。そうすれば、自然



休憩時間は受講者と宮城さんとの歓談となった

に身体の向きが変わり、バイクもきれいに向きが変わります」と宮城さんが答える。「今、皆さんが練習しているコースはギアを2速に固定して、アクセルのオンとオフだけでも走ることができます。しかし、私は皆さんにできるだけシフトアップをするようにお願いしました。

これには理由があります。シフトアップしたら、必ずシフトダウンとブレーキによる減速が必要になります。ブレーキをかけることによって、フロントに荷重がかかります。つまり、フロントタイヤが路面におさえつけられるので、タイヤの旋

宮城さんは、このイベントで、受講者の安全運転の意識を高めることを目的としています。今後はHMSでトレーニングを積んで、上級コースをめざしたいと思っています。

回力を活かせるというわけですが」と、トレーニングの意義についても解説した。応用走行が終わると、最後はレーシングコースの体験走行。鈴鹿サーキット南コースを、宮城さんの先導で受講者は20分ほど周回し、午後6時にすべてのプログラムが終わった。



宮城さんが受講者を先導して、鈴鹿サーキット南コースを周回

### バイクをゆっくりに走らせることが楽しい

愛知県から参加した男性は「1年前に二輪免許を取得したばかりで、こうしたバイクのスクールを受講するのは初めてです。運転について、まだどこか不安を感じることも多いので、インターネットで調べたところ、鈴鹿サーキット交通教育センターのことを知り、申し込みました。基本をマスターして、カッコ良くスムーズに走りたいと考えていたので、そうした目的に合う内容で満足しています。今後はHMSでトレーニングを積んで、上級コースをめざしたいと思っています。」と感想を語る。

「現役を引退してからは、バイクをゆっくりに走らせることが楽しくなってきました」と宮城さん。ライダーが交通事故に遭わないためには、速く走るのではなく、



### バイクの楽しさを広げるためのイベント

3月15日には、交通教育センターレインボー熊本(熊本県大津町)で「ふれあいミーティング in 熊本」を開催。九州の各地から、20〜60代のライダー51名が会場に集まった。

開会式では、交通教育センターレインボー熊本の小畑勲一所長が「今日は日頃、HMSを受講している方々への感謝とともに

交通教育センターレインボー熊本で開催された「ふれあいミーティング in 熊本」には51名のライダーが参加



トライアルの国際A級ライダー・松浦翼選手が華麗な技の数々を披露

に、ファン拡大のためにバイクの楽しさを感じていただける場を用意しました」と挨拶。続いて、トライアルの国際A級ライダー・松浦翼選手がデモンストレーションが行われる。用意された障害物をバイクで軽々と飛び越えるたびに、参加者から歓声と拍手が沸き起こった。

メインとなるイベントは「チャレンジングランプリ」。会場内に用意された「一本橋」「Uターン」「パイロンスラローム」の3つのコースにチャレンジするというもの。参加者はCB1300SF、CB1100、CB1000SFから好きなバイクを選んで、納得のいくまで練習に取り組んだ。この日は鈴鹿に続き、宮城さんが来場し、交通教育センターのインストラクターとともにデモンストレーションや直接の指導を行う。

Uターンに苦戦しているライダーには、「目標は手元ではなく、自分が行きたいほうに向けてください。テールレンズに顔を向けるくらいの意識でターンしてみましよう。Uターンが確実にできるようになると、自信もつくし、ツーリングの時にも安心です」とアドバイスした。

※HMS=Honda モーターサイクリスト・スクール。個人のお客様に楽しく安全運転の知識を身につけていただくことを目的とした参加体験型のスクール。全国7ヵ所のHondaの交通教育センターで開催しており、お客様のスキルやニーズに合わせて、様々なコースが用意されている。

# 特集：ライダーへの安全運転教育

## 常に自分の課題を 見つけて克服する ための努力を

昼休みには、交通安全センター内にあるサーキットコースでの体験走行「サーキット de ツーリング」を実施。また、子ども連れの参加者のために、「ちびっこバイク体験」のコーナーを用意。自転車に乗れる小学生と、その親がペアで参加できる。始めに、インストラクターがアクセルや前後のブレーキなど、バイクの基本操作を説明。次に、エンジンがオフの状態、子どもがバイクにまたがる。それを親が後ろから全力で押し、途中で手を離し、乗車時のバランス感覚とブレーキの使い方身につけてもらう。その後、エンジンを始動して、子どもたちは親のアドバイスを受けながらアクセルと前後のブレーキを操作。発進・停止の練習を行った。

最後に、宮城さんが「バイクは運転者のキャラクターが外から見えてわかることが、クルマとの違いといえます。そのバイクが他の交通参加者にどう見えるかは、乗って



鈴鹿に続き、熊本の会場でも参加者の運転を見ながら適切なアドバイスを宮城さん

親が子どもにバイクの乗り方を教える「ちびっこバイク体験」



交通安全センターレインボ-熊本の中にあるサーキットコースを宮城さんと体験走行する「サーキット de ツーリング」

いる人間にかかっているのです。また、今日の課題にあった一本橋やUターンなど、低速でバイクを思い通りに操るためには高い運転技術が必要です。安全運転に上限はありませんから、常に自分の課題を見つけ、それを克服するために努力してほしいと思います」と締めくくり、「ふれあいミーティング in 熊本」は終了した。

福岡県から小学生のお子さんと参加した40代のライダーは「昨年10月に大型二輪免



「チャレンジランプリ」では「一本橋」「Uターン」「バイロスラローム」にチャレンジ

## 緊急時に危険回避 できる技術を 身につけてもらう

許を取得したばかりで、こうしたスキルも初めての体験です。教習所では学べなかつた、より実践的な運転技術を学ぶことができました。また、ちびっこバイク体験に参加して、子どもにバイクがどういう乗り物かを教えることができたことも良かったと思います。こうした機会があれば、また参加したい」と話す。その他の参加者からも「いろいろなプログラムを通じて、バイクの楽しさを再認識しました」「Uターンの練習が十分にできたので、怖くなくなりました」という声が聞かれた。

このような参加体験型の安全運転教育は、交通安全センターだけでなく、ホンダの二輪販売会社でも定期的に実施している。ホンダドリーム寝屋川(大阪府四条畷市)では、近隣の自動車教習所を利用して、ライディングスクールを年3回開催。同店の吉本均店長は「お客様に安全に乗り続けていただくとうと、スクールを20年以上続けており、バイクを購入されたお客様には必ず案内しています。中には速く走るための練習と目的は自分のバイクに慣れることと、緊急時の危険を回避するための安全運転技術を身につけることだと説明します」と話す。

スクールの開催日は定休日の水曜日。吉本店長をはじめ同店のスタッフも参加し、インストラクター資格を持つスタッフが指

## お客様の課題を 見極め、具体的に 指導していく

導にあたる。「日頃、接している私たちもいることで、お客様に気軽に参加してもらえれば、雰囲気づくりを心がけています。」

参加者は毎回約10名。基本的なプログラムは、午前中が「ライディング」「8の字走行」「バイロスラローム」、午後が「コーススラローム」となる。

スクールでは、まずインストラクターがお客様の運転を観察。運転の課題を見極めて、改善に向けて一人ひとりに合ったアドバイスをしていく。「繰り返し参加している方は、どこが課題かをお客様のほうから質問していきます。」

重点を置いているのは、ブレーキ操作である。フロント、リア、どちらかのブレーキしか使わなかったり、ブレーキと同時にクラッチをきったままにして、エンジンブレーキを使わないお客様が少なくないという。そのため、同じ速度でフロントブレーキだけで停止した場合、リアブレーキだけで停止した場合、フロントとリアを使って正しいブレーキ操作を理解してもらう。

ホンダでは二輪車においても先進安全装備の普及を図っている。その1つが四輪車では当たり前になっているABS(アンチロック・ブレーキシステム)。

「ABSを搭載したバイクを希望されるお客様は増えていきます。その一方、ABSが付いていけば、転倒しない、事故を起こさない」と誤解しているお客様もいます」と吉本店長は指摘する。「ですから、商談時には、ABSの役割と特性を説明し、理解していただくようにしています。また、スクールでは、搭載されているバイクと搭載されていないバイクをインストラクターが運転し、その違いを確認してもらえようになっています。スクールは、先進安全装備の理解促進の場にもなっているよう



Honda DREAM 寝屋川の吉本均店長

スクールの他にも、ホンダドリーム寝屋川では日帰りや1泊のツーリングを企画し、お客様と交流する機会をつくり出している。「当店の強みは、私も含めてスタッフ全員、バイクが好きで日頃も運転していることです。だから、自分たちの経験を活かして、バイクの楽しさと安全運転の必要性をお客様に伝えたいと思っています」と吉本店長は力強く語った。

バイクライフを楽しむ年齢層は幅広く広がってきている。それに応じて、多様なライダーが増えていくことが予想される。ホンダは、交通安全センターや二輪販売会社によるスクールを通じて、多くのライダーに安全に楽しく、乗り続けてもらうための教育を継続していく考えだ。



Honda DREAM 寝屋川が近隣の自動車教習所で開催しているライディングスクール